

三重県におけるスマート農業技術の実装が加速するよう、令和2年3月に改定を行った【三重県食を担う農業及び農村の活性化に関する基本計画～「持続可能なもうかる農業」の実現に向けて～】に取組内容と推進体制を設定しています。

スマート農業技術の実装

それぞれの産地や農業経営体において、AIやIoT、ロボット、センシング、ドローン等のスマート農業技術の実装を促進するためのプロジェクトを展開します。

1 めざす姿と取組方向

(1) スマート農業技術の実装

ア めざす姿

- ・労働力となる人材を最小限にして、経営の規模拡大や効率化が図られている姿
- ・熟練農業者の技術を若い後継者が継承し、農業に定着・活躍している姿
- ・農産物等の生産量の増加や品質の向上、新たな付加価値が生まれている姿

イ 地域の推進主体における取組方向

- ① さまざまなスマート農業に関する情報を取捨選択しながら、それぞれの産地や農業経営体にとって、必要な情報を提供していきます。
- ② 企業等が開発したスマート農業技術について、それぞれの産地や農業経営体の実情に応じて必要と考えられる技術の現場実証に取り組みます。
- ③ 産地や農業経営体を対象として、スマート農業に係る導入可能な技術や将来必要となる技術等の研修などに取り組み、スマート農業人材の育成を図ります。
- ④ 実証の結果、効果が確認されたスマート農業技術などについて、他の産地や農業経営体に対する導入促進を図ります。
- ⑤ 農業研究所、畜産研究所において、企業等と連携しながら、本県の産地や農業経営体に導入可能なスマート農業技術の各種試験や改良に向けた研究などに取り組みます。

2 スマート農業の実装に向けた推進体制

地域において、農林水産事務所が中心となって、スマート農業の実装に向けた推進チームを設置し、企業、国の研究機関、大学等と連携しながら、スマート農業の実証など地域課題に応じたプロジェクトを展開します。また、県庁の関連課や研究所がスマート農業技術に関する情報提供や技術移転など地域のプロジェクトの支援に取り組みます。

(参考) スマート農業技術の実装に向けた推進体制のイメージ

